



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 9 月 30 日(日)
上町・サンピノ自治会合同防災訓練&セミナー 編

今年の自主防災訓練には、二つの「新しいこと」がありました。

その一つ、これは画期的で、最も嬉しいことなのですが、今回の防災訓練・防災セミナーは、居住する地区を同じくする、上町自治会とサンピノ自治会によって初めて「合同」で実施されたことです。居住する地区が同じということは、災害の場合には、同程度の被害を受けるということであり、被災後には、手を取り合って救急・救護活動や食事の煮炊きにあたらなければならない「間柄」となることが予想されます。垣根を越えて、合同で行われた意義は大きいと思います。

また、名前だけの「合同」ではなく、準備会の段階から大塚サンピノ自治会長さんからは、サンピノ側独自の訓練プラン(担架搬送訓練)を持って参加していただきました。このことは、さらに素晴らしいことでした。

当日、各自治会ごとにそれぞれの計画に基づいて「安否確認・人員集約」を行った後に開かれたセミナーの冒頭に、消防署員の指導をうけながらサンピノ自治会の皆さんによって、災害時、動けなくなった人や高齢者を搬送する「担架搬送」の実技訓練が、非常階段を使って行われました。その訓練に上町自治会員、他地区自治会・他団体からの参加者も立ちあわせていただき、多くのことを学ぶことができました。

そのお返しではありませんが、その後で、上町すみれ会員の指導によって、サンピノ自治会員の方々とともに、ハイゼックスシートを使っての「非常食作り」の実技演習が行われました。

今年の防災セミナーの、もう一つの新しいことは、私たちが「ワークショップ」に取り組んだことではないかと思います。

従来のセミナーでは、専門家の方々の講話を聴く・講義を受けるという受身の形で、防災について学ぶことが多かったのですが、今年は、「全参加者が小グループをつくり、与えられたテーマについて、自分たちで考え、意見を出し合い、その成果をまとめて、みんなのものとする」というワークショップにチャレンジしました。

今回のワークショップは、コーディネーターを務めていただいた渡辺千明先生の「震災被災地に何度も入って、強く感じたことは、災害時には自分のことは自分で行き、できない人と



上町(上)とサンピノ(下)の両自治会それぞれが避難訓練を実施し、それぞれホールにて安否確認を実施。



エレベーターが止まってしまったときのために、消防署の指導を受け、担架の使用訓練がありました(上)。担架はたくさんないこと、階段の踊り場では使いにくいことから、毛布を使って搬送する方法も学びました(下)。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

は助け合うことが最も大切。そのためには、常に防災意識持ち続け、防災訓練を継続して、住民が自主的に防災力を高めることが大切」というよびかけのもとに、下記の小テーマごとに、数人がグループを作り、テーマに沿って意見・感想・着想を出し合い、それを一枚の模造紙にまとめて、その結果を、それぞれのグループの代表が全体会で発表するという形で行われました。

※[小テーマ]

- ①非常持ち出し袋を用意してますか？
- ②夜間に災害があったら……
- ③ハザードマップを見てみよう。
- ④救護が必要な人がいたら……
- ⑤災害発生！まずどこに避難しますか？
- ⑥津波が来るかもしれない！そのときあなたは？

話し合いの内容や結果について、ここではあえて触れませんが、ワークショップの良さは、参加者全員が直接、話し合いの場に参加して自分の意見を述べ、他の人の意見を聞き、共同して結論をまとめていくなかで、自らが気づくこと・感じることが多いということにあります。

災害や防災については、本や新聞で知識を得ること、講演や講話・授業などで、まとまった知識を学ぶことも大切なことですが、このたび、ワークショップに参加して、みんなで話し合い、意見を交換するなかで、自分自身が災害に備えて考えておかなければならないこと、準備しなければならぬことなどが、実に沢山あることに気づかされました。

災害は知識や防災体制が完全であれば防げるというものではないと思います。「災害は突然にやってくるもの」です。その災害に備えるためには、「不完全ながらも備えること」、「自分自身にとって身近で、実際的なことを備えること、そして隣近所・住民同士が、具体的なことがらについて共同して備えること」が大切で、それが「地域の防災力」となるのではないかと、強く感じています。

私たちの自主防災訓練・防災セミナーは今年、上町自治会とサンピノ自治会が合同で開催するという「ひろがり」をもつことができました。また、ワークショップに取り組み、自分たちの手で、防災の実際について具体的に考えるという「深まり」を得ることができました。

今後、この成果をぜひ発展させていきたいものです

文：相澤 紘一



この日のテーマは「みんなの避難所を考える」。参加者それぞれが関心のあるテーマごとに班に分かれ(上)、上町すみれ会のサポートを受けながら非常食作りです(下)。



各班には消防や市役所・国交省の方にも入っていただき、お知恵をかりながら話し合いを深めました(上)。各班の発表では色々な気づきや提案があり、中にはハザードマップを始めて目にする方もいて、こうした企画の必要性を感じました。



最後はみなさんで非常食を食べてみます。思いの他の出来上がりに話しもはずみです。知恵の共有をはかるため、すみれ会からはこれまでのノウハウや工夫の説明もありました。